



商学部長  
河合 久  
Hisashi Kawai

## ようこそ、新・中大生!

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。商学部教職員は、「商学」という学問を共に探究できる多くの仲間を、ここ多摩キャンパスにお迎えすることができたことを喜ばしく、また誇らしく思います。

「商学」という学問領域の直接的な対象は企業活動に代表されるビジネス(組織の営み)にほかなりません。しかし、企業はそれ自体で単独に存在しているのではなく、経済社会全体を構成する要素として経済社会や環境に影響を与え、またそこから影響を受けるという相互関係の中で成立しています。しかも、ビジネスは私たちの生活を内包し、人々の日常的活動の外延上に存在していることとなります。それゆえ商学領域を学ぶには企業単体の行動に目を向けるだけでは不十分であり、周辺の経済学領域や外国語、人文・社会学などに視野を広めることが、国際競争力の向上を目指す日本企業、ひいては世界の企業動向を学ぶ皆さんに求められています。

商学部は、皆さんの関心領域に沿った比較的柔軟な科目選択を可能とするカリキュラムを編成しています。しかし、学年が進むにつれて多くの学生はより専門的な分野に研究対象を絞るのが一般的です。その際、研究対象の選択を適切に判断するためには、たんなる関心だけではなく、自分で納得できる合理的な根拠をもつことが不可欠となるでしょう。これまでの勉強と決定的に異なるのは、大学での学問では対象となる事象や実態を科学的に分析する力を身につけることが重要となる、ということでしょう。そのような視点から能動的に講義やゼミに参加して欲しいと思います。

人の存在は企業(組織)の存在と似ています。人は社会との関係で存在しています。人はおよそ単独で生きられないでしょうし、他人から影響を受け他人に影響を与えます。大学生活の4年間は、授業やゼミだけでなく、課外活動(スポーツ・文化活動)においても常に他者との交流とコミュニケーションを伴います。これまで以上に主体性と協調性が求められます。大学生活でなければ得られない友人を作り、友人から異なる価値観を学び、新たな自己の発見と創造に時間を費やすこともできるはずですが、いま大学生活にいくらかの不安を抱えていても、勇気をもって自分の殻(世界観)から半歩先に飛び出してみてください。そして、皆さんの力によって元気で健全な商学部を築いて頂きたいと思います。商学部の各科目で学ぶことを日々の自己形成に応用してみてください。



理工学部長  
石井 洋一  
Yoichi Ishii

## 専門力と発信力

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

理工学部に入學した皆さんの多くは、科学技術に夢を感じて理工学の道を選んだことと思います。そして、まだ漠然とではあるかもしれませんが、科学技術に関わる仕事を目指している人が多いことでしょう。では、将来社会へ出るときに、一人前の技術者・科学者として、あるいは理工学を学んだ者として、必要なのは理工学の専門力だけでよいのでしょうか。いえ、決してそうではありません。

理工学は専門性の高い分野ですから、専門力が重要であることは事実です。本学としても専門力の育成には大いに力を入れているところです。しかし、実社会で活躍するには、発想力やリーダーシップなど、力強い「人間力」も必要になります。皆さんは、大学生活の中でそれらも養っていかねばなりません。私は、特に皆さんには、自分の考えをまとめ、それを他の人たちに理解させるという意味での「発信力」を身に付けることに注意を払っていただきたいと思っています。日本語、外国語を問わず、言葉を大切に、正しく情報を伝え、聴く人を納得させる力、それは理工学でも、いや理工学だからこそ、必要なのです。

理工学なのに語学力がいるのか、と感じる人もいるかもしれませんが、科学技術の世界は、未知なる真理を明らかにし、あるいは新しい技術を開発することを競う、競争の世界です。明らかにした成果は、世界に向けて発信して、初めて成果として認められます。発信されない成果は、無いのと同じなのです。また、科学技術は大きな影響力を持つがゆえに、科学技術の力を使う者は、その力の影響や限界を社会に対して説明する責任を負っています。原子力の利用に関する社会的議論については皆さんもご存じと思いますが、どんな科学技術も、このような議論を避けて通ることはできません。自分の成果を発信し、また説明責任を果たすこと無しには、理工学は成り立たないのです。

これからの理工学部での生活の中で、専門力だけに目を向けるのではなく、発信力を身につけることにも注意を払ってください。語学の学習はもちろんですが、良い文章をたくさん読み、また言葉を大切に使う習慣をつけてください。そうすることが、たくましい専門力を支えることになるのですから。